令和 4 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業）

バイオテロ対策のための備蓄されている細胞培養痘そうワクチンの備蓄等、バイオテロ病原体への検査対応、公衆衛生との関連のあり方に関する研究
分担報告書

分担研究課題名　サル痘のサーベイランス研究

所　属　　国立研究開発法人国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター
研究分担者　水島 大輔

研究要旨：サル痘（エムポックス）の国内での流行状況の早期把握および無症候性エムポックス感染症の実態を評価するために、エムポックスハイリスク集団である MSM の既存のコホートで、無症状者を対象とし、淋菌・クラミジア検査用の直腸検体等を利用してエムポックスの PCR 検査を実施した。1346 名の MSM のうち、3 名が実質的にエムポックス陽性となり、6 名が有症状のエムポックスと診断され、無症候性感染は有症状感染とそれほど変わらない頻度で認められる可能性が示唆された。高リスク者では、軽微な症状や非典型的な症状であってもエムポックスの可能性を考慮することが、エムポックスの感染対策に寄与する可能性がある。

研究協力者
氏名・所属研究機関名・職名
水島大輔（国立国際医療研究センター エイズ治療研究開発センター(ACC)）

A. 研究目的

本研究では、エムポックス流行の中心となる男性間性交渉者（MSM）の国内の既存のコホートにおいて、性感染症（STI）のハイリスク者を中心に、無症状者に定期的に実施している直腸ぬぐい等の淋菌クラミジア検査の残検体を活用し、エムポックス PCR を実施し、日本の MSM におけるエムポックスの早期発見のための多施設共同疫学調査を実施するとともに、MSM のエムポックスワクチン接種に関する簡易な意向調査を実施する。当研究では全体の研究期間が 4 か月と制限があるため、今年度に横断的に無症候性エムポックス病原体保有者に対する積極的な疫学調査として、東京近郊の既存の MSM コホートでエムポックス PCR 検査を実施しサル痘の有病率を明らかにし、エムポックスの国内流行の早期発見・早期対策に資することを目的とする。

B. 研究方法

MSM コホートにおいて細菌性 STI 検査で用いた直腸検体等の残検体を活用し、エムポックス PCR 検査を都内三施設で実施する。同時に研究参加者のエムポックスワクチン接種に対する意向調査を併せて実施する。

【倫理面への配慮】

当研究は当院、倫理委員会承認済みであり、インフォームド・コンセントによる文書による同意を取得する。

C. 研究結果

1346 名中 5 名（0.37%）でエムポックス PCR が陽性となった。5 例中 1 例で、研究検査実施前に、皮疹はないが咽頭痛・発熱の症状があったことが判明し、1 例が、検査数日後に皮疹を発症した。3 例に関しては、検査後に症状を発症した症例はなかった。一方、検査で陰性だった 1341 名中 4 名が、研究期間中に発症しエムポックスと診断された。本研究では、8 名がエムポックス陽性となり、無症状者と有症状者はそれぞれ 3 名（0.22%）、6 名（0.45%）と両者で大きく変わらない有病率だった。エムポックスワクチン接種の意向に関しては、接種痕の説明がない条件であるが、全体の約 9 割が接種希望していた。

D. 考察

有症状者と比較して、無症状者は検査のタイミングによっては見逃され、過小評価されている可能性が高い。高リスク者は軽微な症状であっても、エムポックスの可能性を考慮する必要性があると考えられる。また、無症候性感染の感染性に関する研究が必要である。

E. 結論

エムポックスの無症候性感染の疫学調査を実施した。

F. 健康危険情報

現時点で、該当事項はなし。

G. 研究発表　該当無し

H. 知的財産権の出願・登録状況　該当無し